

SUMA いる タイムズ

第15号

第4回介護に役立つ医療講座

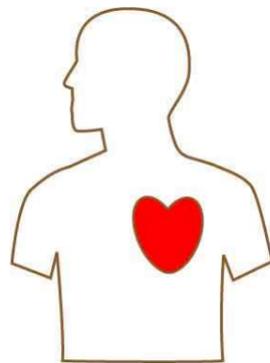
令和元年5月16日(木) 18:00~20:00

(須磨区医師会館 参加者62名)

テーマ：心不全

講師：藤原俊樹先生(須磨区医師会会員)、安田温子先生(兵庫県立大学看護学部助教)
『在宅の心不全患者で注意したい訴えと観察点』藤原俊樹先生
心不全の病気や在宅での心不全患者、心不全悪化を早期発見するための注意点。

『心不全の在宅療養支援について』安田温子先生
心不全の看護、日常生活の支援、心不全患者のエンドオブライフケア(アドバンス・ケア・プランニング含む)



【質疑応答】

- Q) 介護施設や自宅で介護職員などが心不全をキャッチする有効なデバイスはあるのか。パルスオキシメーターの活用はどうか(医師)
- A) パルスオキシメーターは有効だが、酸素飽和度99~100%でも心不全となっている場合もある。介護職員が把握しやすいのであれば体重測定ではないか。体重が数キロ増加しているなら憎悪の可能性はある(講師)
- Q) 訪問看護導入で急性増悪時には医療保険利用でいいのか。また介護保険の利用枠が一杯でも増悪時には医療保険の利用を第一に考えていいのか(医師)
- A) 心不全増悪時には何より医療保険での訪問看護等の医療となるので、ケアマネには躊躇なく主治医に報告し訪問看護の導入を直ちに検討する(講師)

【アンケート】今後の業務に役立ちそうと答えた人が9割以上。心不全という病気の理解が来た・深まった、心不全の慢性と急性の違いや急性の場合は一刻を争うということがわかった等のコメントがありました。



令和元年度第1回多職種連携検討会

令和元年6月6日(木) 17:00~19:00

(須磨区役所 参加者:81名)

【話題提供】神戸市保健福祉局健康部地域医療課係長の酒井恵美子氏をお迎えし、この平成31年4月に作成しました「神戸市入退院時ガイドライン」についてご説明頂きました。

(質疑応答)

Q) ガイドライン(シート)は必ず使用しなければいけないのか。

A) かならずではないが、出来る限り使用してほしい。既にシステム(ソフト)に組み込まれているのであれば変更は難しいと考えている。但し、神戸市介護保険課との共通認識でアセスメントシートとしては今回提示した入退院連携シートが代用として考えられている。



【事例検討会】

架空事例「精神疾患と内科疾患を抱えた独居の利用者の在宅医療支援を多職種で考える」
今回のグループワークは、①自分の職種で出来ること②他職種への希望や要望③総合的な援助方針を話し合っていました。

①に関しては、看護師は容態・内服の確認。薬剤師は多剤のため医師へ減量提案、医師は訪問薬剤指導指示書、ケアマネは神戸モデルへの受診を促す、サービスの見直し調整。

②に関しては、薬剤師は薬の減量提案は出来るが実施するかは医師の判断である。歯科衛生士からは利用者の口腔内を見ることはあるか。見守り推進員は、地域にも情報が欲しい。

③に関しては、関係者によって生活を何とか維持できているのであれば見守っていく、認知症確定診断を受ける、成年後見制度、内科医・精神科医の連携を行う、薬剤師の薬剤管理。



【アンケート】お互いの役割・できることを伝え合うことで支援が深まると思った、自分も他者・他事業所から期待されている事を自覚できた等と言った他職種に対して自分の出来ること期待されていると言ったコメントがありました。



発行：須磨区医療介護サポートセンター
神戸市須磨区磯馴町6-1-4 須磨区医師会内
電話078-735-0041 Fax078-735-019
(<https://kobe-iks.net/>)